

やなづのお宝はっけん!!

こどもアートセッション



にしやまのお宝はっけん!!

こどもアートセッション



2021年度秋、
柳津町の斎藤清美術館と、
中央公民館（ふれあい館）、西山公民館（ゆきげ館）で、
イラストレーターの小池アミイゴさんと
柳津小学校と西山小学校の子どもたちが、
柳津と西山の好きなところを探しながら
思う存分描くことを楽しみました。

やなうのお宝はけん!!
こどもアートセッション

+

× 小池アミイゴ

にしのお宝はけん!!
こどもアートセッション

4年後の柳津

斎藤清美術館で再会した4年後の柳津小学校に通う子どもたち。再会と言っても、4年前と一緒に絵を描いた子どもたちの多くは卒業し、「はじめまして」の子どもたちがほとんど。

だけど、その後の3年間で共にしてきた昭和村の子どもたちとは違う、やはり柳津ならではの土地の色を纏っている印象なんだよね。

しかし、4年前の柳津の子どもたちは、言うことを聞かない子ばかりだったなあ〜。それは学校や放課後教室という限られたコミュニティの中、ひとりひとりに自然と設定されちゃうキャラが、「みんなで絵を描こう!」という場面でも声を上げちゃうんだろう。「わたしってワルイ子だから〜」みたいな感じでね。そういうのって、日常のしんどいことをやり過ごすための知恵であったりもするから、ボクが安易に否定することは出来ない。だけど、絵を描く一瞬でいいから「本来のわたし」が絵筆を振ってくれたらね、それはいつか「生きる上での救いになるぜ!」という思いで、子どもたちひとりひとりと格闘。そんなのが4年前のセッションでした。

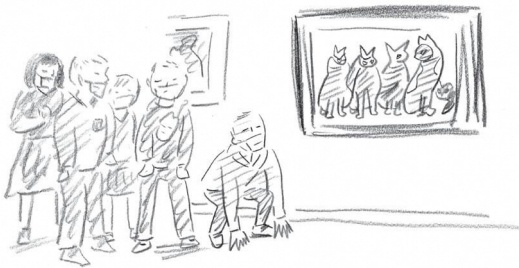
なので、今回もちょっと身構えて迎えた2021年の柳津の子どもたち。が!なんだ?みんな実に「素な自分」でコミュニケーションしてくるではないか!低学年から高学年までスムーズに言葉が伝わり、ボクが出すお題にひとりひとりそれぞれの方法で軽やかにアプローチし、実に気持ちの良いストロークで自分の色を塗りあげてゆくぞ!みんな何があった?もしや4年前のワークショップで蒔いたものが、花を咲かせてる?

いや、多くの子どもたちが「はじめまして」の子なんだって…。「これはどうしたことだろう?」と現場を観察してゆくと、子どもたちを見守る大人の変化に気がつく。なるほど!4年前はボクを“お客様”と捉え、少なからずの遠慮と多大なる忖度を持って迎えて下さった、子どもたちを見守る大人たち。それが今回は思いっきり主体的に、そしてボクのやることに並走するようにして現場を創ってくれているんだ。

4年前、子どもたちとボクの間に生まれるクリエイティブな状況に、大人は善意の干渉をなさっていました。ボクはその干渉を厳しく制してばかりで、それは普段責任を持って子どもたちと接している方々に対し、実に失礼な行為だと申し訳なく思うばかりで。ところが、セッション終了後にある方がボクに「優しい」と言ってくれて、びっくり。「優しい」ってどういうことだろうと考え続けて4年。4年前にボクが子どもたちと交わしていたコミュニケーションのあり方を、現場の大人の皆さんそれぞれが咀嚼され、それぞれの方法で子どもたちとコミュニケーションしてくれている。そうして生まれる風通しの良い空間で、子どもたちが思いっきり「自分」を表現している。子どもたちとの現場は4年前と変わらず慌ただしく、関わる皆さんと振り返る時間も作れずだったけど、子どもたちが描いた世界は、普段接する大人達に大らかに守られ、さらに気持ちの良い未来の方に向かって伸びているように思えたのです。

小池アミイゴ

群馬県生まれ。会津若松市出身の長澤節が東京で開いていた「セツモードセミナー」で絵と生き方を学ぶ。1988年からイラストレーターとして活動。2017年11月と2018年1月にも斎藤清美術館でその当時の柳津の小学生たちとアートセッションを行いました。その後も、柳津町、三島町、金山町、只見町、昭和村を旅したり、絵を描いたり、昭和村の子どもたちと昭和村の面白いところを探したり。奥会津が大好きなアミイゴさんです。



はじめまして、西山

柳津小学校より山間にあり、さらに小規模な小学校、西山小学校の子どもたち、こんにちはー!

斎藤清美術館のギャラリーで、斎藤清やピカソの作品を見ながら、楽しい会話をしようぜ!あ、やっぱりみんなシャイだよね〜。でも大丈夫、日本のほとんどの子どもたちはみんなこんな感じだからね〜!そんな空気感で始まった、1年生から6年生まで20名弱のほぼ全校生徒と向き合うセッション。

美術館でのトークでは、コミュニティリーダーのような4年生女子が現場を引っ張ってくれる。「ピカソの絵と同じポーズ出来る人いるかな?」というボクの問いに、子どもたちは一斉に「〇〇くん〜!」と声をあげ、お笑い担当の6年生男子を指さす。「じゃあ大きな絵を描こう!」という声掛けに「シーン」。こういう時はコミュニティリーダーの女の子を頼って、描くきっかけを作ればいいよね。え!?出来ないって…ボクからの投げかけに周りを見渡してから出来ないサインを出す女の子。

なるほど、4年前の柳津と同じく、コミュニティの中でのキャラ設定が、今回は良い子方向でロックされているんだ。1st.セッションは無理することなく、ボクを彼らのコミュニティの中に馴染ませることに終始させました。

そして2nd.セッション。彼らのホームグラウンドである西山に会場を移し、“良い子”のみんなに西山のことを尋ねまくる、でかい絵を描くワークショップ。良い子キャラで答えているうちに、絵の具が紙に飛ぶ。そこに面白さを見つけた子は、“良い子”を徐々に振りほどきながら、自分の喜びを追いかけてゆく。そうして生まれた絵の多くが濃い緑色の絵。これは柳津の子どもたちの色彩と違う、西山の色。「いいね〜!」と声をかけると、パッと表情を明るくする子が増えてきた。

と、一番おとなしくしていた女の子が、5メートル四方の画面を制圧する勢いで筆を走らせる。普段子どもたちと接しているみなさんが“いつも静かな彼女がこんな絵を描くこと”に驚いている。お笑い担当男子は、淡い水色の絵の具を誰よりも繊細に画面に広げてゆく。コミュニケーションリーダーの女の子は、実は可愛い絵を言葉と一緒に丁寧に紡ぐことが好きみたいだ。今回の一番の聞かん坊くんが「じゃあみんなでここにこの色をぬろう!」とリーダーシップを発揮し始めた。上級生グループはみんなに背を向け、学校美術的な良い絵を描くことに終始している。画面を制圧していた女の子がボソッと「きもちいい」とつぶやいた。その「きもちいい」が徐々にみんなに伝染してゆく。西山色がどんどんと広がってゆく。

今回のセッションで全員が「本来のわたし」を発動出来たわけではないのだけど、しかし「4年後の西山」がボクは今から楽しみなのだ。



わたしの好きな柳津 やないづのお宝発見!!
こどもアートセッション
第1回 日時 11月17日(水) 13:45～15:45
会場 斎藤清美術館
第2回 日時 12月1日(水) 13:45～15:45
会場 やないづふれあい館(柳津町中央公民館)
協力: 柳津町放課後子ども教室ジャンプやないづ



一番好きなものの色を塗りましょう。栗饅頭?ソースカツ丼?いいね～」こうして頭も体も温まってきた子どもたち、床に敷いた巨大な画用紙に向かい始めます。さっき描いた猫を塗ったり、絵の具を直接画用紙に出して塗り広げたり。「こんなこと今までしたことない」と呟く姿もありました。

12月1日は柳津で今年度2回目のワークショップ。会場は柳津町の公民館です。1回目のワークショップで美術館のホールに敷いた大きな紙を敷き直しておきました。公民館に着いて走り回ってはしゃいでいた子どもたちを集めて、絵本を読み始めたアミゴさん、絵本の中に山の絵が出てきたとき、窓の外を指さします。「あの山とかすごかったいいと思ったからこの絵を描きました。」気持ちが落ち着いたら、みんなで絵を描き始めます。しばらくすると、窓の外に虹が現れました。虹を描こうと言って、大きな紙を横断するように線を引いていくアミゴさん。アミゴさんにつられ、子どもたちはだんだん絵を描くことに集中します。

アミゴさんはワークショップの間、子どもたちに「いいね」「これ、綺麗だね」と、声をかけ、そのまま続けて大丈夫と安心させます。大人たちにも声をかけ、このアミゴさん流の見守り方を伝えていきます。そうすると、何を描いたらいいかわからないと言っていた子が、2回目のワークショップでは彼らしい色使いで山の絵を描いてくれたり、次第に自分で工夫して描こうとする瞬間が見えてきました。

わたしの好きな柳津

11月18日、今日もアミゴさんはワークショップの本番です。会場は同じく斎藤清美術館。前日の柳津の子どものときと同じ大きさの紙を敷いて準備しました。今日来てくれるのは、柳津町放課後子ども教室杉の子サークルの子どもたち19人です。集落をいくつも越えたところにある西山という地区に住んでいます。みんなが美術館に到着するとまずは展示室へ。見終わると、床に敷いた巨大な画用紙に絵を描くワークショップです。「靴のまま上がっていいよ」と言われてもなかなか上がれない子どもたち。まわりの様子をうかがう視線に、まだ肩に力が入っていることが感じられます。アミゴさんは、大きな紙に絵を描くワークショップをするときに、紙の上に寝転んだ人の形をなぞって大きなストロークを引き出します。こんな時間を過ごしていると、面白いポーズをとって欲しい時、必ず呼ばれる子がいたり、同じ学年で集まって描く姿がありました。アミ

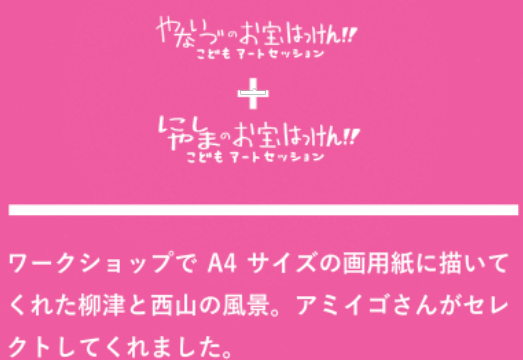
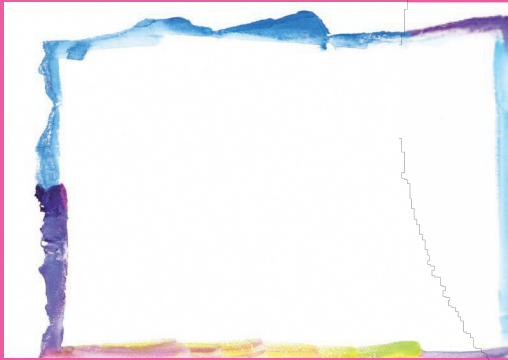
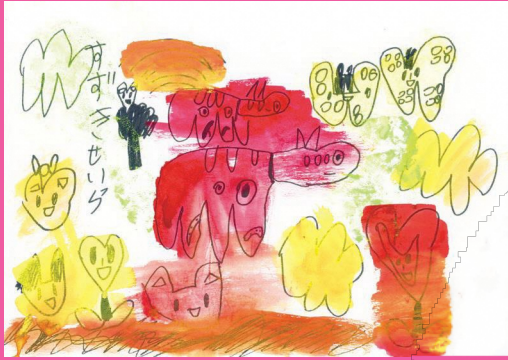
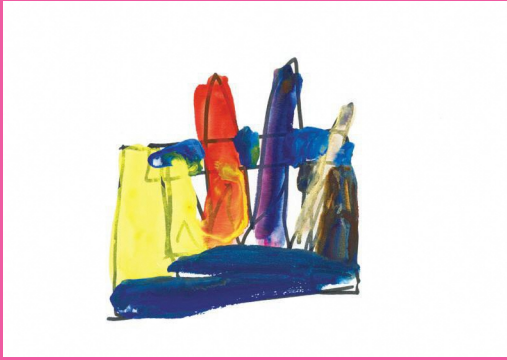
ゴさんはこういうところに目を光らせます。12月3日、西山の子どもたちとのワークショップ、2回目の会場はゆきげ館です。前回子どもたちが絵を描いてくれた大きな紙を、また床に敷き直して準備しました。アミゴさんは今日も絵本を手に取り、「ここはなんと呼ぶでしょう。」「山の風景!」「表紙!」「想像力豊かな子がいるね。でも違いませう。みんなが表紙だと思ってるこれはカバーです。本当の表紙はカバーの下にあります」と、アミゴさんと子どもたちの距離を近づける絵本の時間です。絵本を読み終えてペンを配ると、すぐに描きはじめる子どもたち。3人で固まって描きはじめたチームは、ひとりや青や金の絵の具を垂らして描き、もうひとは緑一色や黄色一色の微妙なタッチの絵をつくりだし、3人目はパレットがわりにした紙皿を使ってオレンジの輪っかを描いて中を青で塗りつぶし、三者三様の方法を編み出

していきました。他にも、教室の隅で周りに目もくれず発電所を描く子や、色水を作るチーム。一人で迷いなく絵の具を混ぜて自分の色を作り、自分の体くらいの面積を黙々と塗っていく子もいます。前回、面白いことをする係としてことあるごとに呼び出されていた子も、この日は静かに淡い色の西山の風景を描いていました。大人に何を言われたわけでもなく自分たちの方法で描く子どもたちを見ると、アミゴさんの言葉が思い出されます。「豊かな想像力がすでにある」アミゴさんのワークショップは、心のブレーキをそっと外し、子どもたちが想像力を発揮してくれる時間を作ってくれます。



わたしの好きな柳津 にしやまのお宝発見!! こどもアートセッション
第1回 日時 11月18日(木) 13:45～15:45
会場 斎藤清美術館
第2回 日時 12月3日(金) 14:45～15:45
会場 柳津町地域住民交流センターゆきげ館(柳津町西山公民館)
協力: 柳津町放課後子ども教室杉の子サークル





■ 作品展



わたしの好きな柳津
やないづのお宝はっけん!! こどもアートセッション
+
にしやまのお宝はっけん!! こどもアートセッション
作品展
×
福島藝術計画 2020 福島こども藝術計画 アートによる新生ふくしま交流事業
わたしの好きな昭和
しょうわの子だま 作品展
会期 2022 年 3 月 19 日 (土) ~ 5 月 22 日 (日)
会場 斎藤清美術館 アートテラス
キュレーション 小池アミイゴ
柳津と西山の子どもたちと行ったアートセッションで生まれた作品と 2020 年度の福島こども藝術計画で行った小池アミイゴさんを介した昭和村の小学生と全国各地のユニークな大人たちの絵の往復書簡「しょうわの子だま」から選りすぐりの名品も特別ゲストとして展示した作品展を開催しました。

小池アミイゴさんに講師をしていただいた「わたしの好きな柳津」は、子どもたちが自分が暮らす土地と出会い直し、その土地の好きなこと、気になることなどをアミイゴさんと探しながら、創造的な時間を楽しむワークショップです。柳津はこの数年間奥会津で行ってきた「わたしの好きな○○」シリーズがスタートしたはじまりの地。4 年ぶりに戻ってきた 2021 年度、2 回目だからこそ浮かび上がる子どもたちの違いや子どもたちが描く絵から、柳津と西山という柳津町を構成する二つの地域の個性を教えてもらうことができました。また、斎藤清美術館という地域のミュージアムが活動の拠点となることで、子どもたちが文化を享受し、創造を楽しみ、他者と出会う現場としてのミュージアムの役割と意義を再認識させてくれる事業ともなりました。子どもたちとアーティストとミュージアムの協働が豊かな創造の時間を生み出すことを教えてくれた、本ワークショップに関わってくださったすべての方に感謝申し上げます。

アートで広げる子どもの未来プロジェクトとは？

福島未来を担う子ども達に、将来「新生ふくしま」を推進する人材として活躍してもらうため、多彩なアートプログラムを体験できるワークショップを実施することで心豊かな成長を支援します。

福島藝術計画 2021 福島こども藝術計画 アートで広げる子どもの未来プロジェクト

わたしの好きな柳津
やないづのお宝はっけん!! こどもアートセッション
+
にしやまのお宝はっけん!! こどもアートセッション
記録集

テキスト・ドローイング 小池アミイゴ
テキスト・撮影・デザイン 江畑芳
編集 川延安直、小林めぐみ (福島県立博物館)
発行 福島県

主 催：福島県
共 催：斎藤清美術館
事業受託者：認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島
企画：福島県立博物館

* この事業は、国内外からお寄せいただいた寄附金をもとに造成された「福島県東日本大震災子ども支援基金」により実施しています。